

6月定例会 一般質問通告一覧表

1	(仮称)道の駅小郡について	古賀 敏彦
1	隣接自治体との協力関係の推進について マイナンバー制に向けた庁内準備体制について	入江 和隆
3	学校等施設のバリアフリー化の推進について	佐藤 尚武
1	安全と安心の街づくりについて	新原 善信
2	1 子どもの貧困対策について 協働のまちづくり実施計画への人権のまちづくりの位置づけについて	竹腰 昭
2	1 待機児童について 介護保険について	立山 稔
2	1 農業について 教育環境について	城山 雅朗
1	協働のまちづくりにおける福祉計画の推進について	田代 和誠
1	消防団の運営について	百瀬 光子
2	1 地域での見守り活動の推進について 熱中症対策について	後藤 理恵
1	子育て支援について	廣瀬 勝栄
1	スポーツ推進について	

個人質問

(仮称)道の駅小郡について



古賀敏彦議員
(清和会)

道の駅は、本市の農業、商業及び観光等を市内外への発信基地として大きな効果があり是非小郡市に建設してください。

ハード面として①建設場所は、主要地方道久留米筑紫野線沿線で花立山や城山公園と一体となった場所が最適だと思いますが如何でしょうか。

②面積については、近郊では道の駅うきはが1・8ヘクタールあります。花立山や城山公園と一体となった魅力ある道の駅にするためには3ヘクタールほど必要だと思いますが如何でしょうか。③市民、職員等が丸となって素晴らしい魅力ある道の駅を創るためには開業時期の明示が最も重要だと考えますが如何でしょうか。以上、3点についてお尋ねします。

市長―①・②・③関係各課が

道の駅に関する検討の場として、庁内検討会を開催し課題の整理等を行っています。

場所や規模、開業時期等については現時点では明示できませんが、今年度は総合振興計画の後期基本計画の策定年度であり、道の駅に関するビジョン等をどのように盛り込んでいくのか取り組んでいきます。

学校等施設のバリアフリー化の推進について



入江和隆議員
(清和会)

障がい児の地域小・中学校への受入れ実績は他の自治体に比べて大いに誇れると思いますが、①障がい児受け入れの実績について、②本市学校等施設での、エレベーターや階段昇降機等の設置状況についてお尋ねします。

また文部科学省の学校施設バリアフリー化推進指針では、学校は地域の防災拠点でもあり、必要に応じて計画的にバリアフリー化を推進することが示されています。そこで③今後の施設整備の考え方に

て、④必要に応じた予算措置についてお尋ねします。

教育長―①障がい児など特別な支援を要する児童・生徒の受け入れ実績は今年度、小学校87名、中学校28名の在籍数です。②エレベーターは4校、階段昇降機は1校に設置しています。多目的トイレは、全フロア設置が4校、一部フロア設置が3校で、スロープ、手すりは、全校設置です。③学校の大規模改修事業時に段差解消や多目的トイレを各階に設置し、トイレの洋式化と床の乾式化を進めます。大規模改修予定が後になっている学校も既存の修繕費予算で必要に応じてスロープや手すりの設置、トイレ改造など、できる限り施設整備を進める方針です。④補正予算については、財政局と協議し進めていきたいと考えています。

「安全と安心」対策に もつと力を!!



佐藤尚武議員
(悠成会)

①昨年全国で自転車にかかわる事故が約11万件で死者が500人程でした。自転車道や通学歩道等が整備されていないので危険を感じます。交通弱者のことを考えた道路整備推進又安心のための自転車保険の加入促進についてどう考えていますか。②昨年も質問しましたが、空き家対策について及び条例制定の推進はどうなっていますか。③又更地にしたら税金が高くなる固定資産税の優遇制はどう考えていますか。

市長 ①街頭啓発等の交通事故防止に向けた様々な機会を活用するとともに関係団体と連携し自転車利用者に対する事故のリスク、保険制度の必要性等について周知を図り、自転車保険の加入促進を図ります。自転車道、歩道の整備については、路肩の舗装等、警察と協議しながら取り組み、通学路については定期的に関

係機関と合同点検を実施し、安全確保に効果的な取り組みを推進していきます。②空家等対策の推進に関する特別措置法が施行され、法的根拠が提示されたので、県の空家対策連絡協議会に参加し、情報や課題の整理を行い、来年12月には条例の制定が出来るよう努めます。

環境経済務部長 ③土地に家屋がある場合200㎡までは、税額を6分の1にする等の優遇措置がありました。今回の改正で特定空家等は、優遇制がなくなり。税条例の整備を平成28年度中に実施予定です。



▲カラー舗装された通学路

深刻化する 子どもの貧困



新原善信議員
(市民クラブ)

小郡市における子どもの貧困の実態と施策についてお尋ねします。次に、昨年8月制定の国の子どもの貧困対策に対する大綱の概要と国、県の動きについてお尋ねします。

市長 小郡市では、子どもの貧困の実態調査を実施して、現状把握に努めています。その一つ、就学援助率は、小学校14.6%、中学校16.1%で、増加傾向にあります。また、ひとり親家庭は、児童扶養手当との重複受給者が就学援助者の41.6%と高い割合を占め、収入面でのより厳しい状況がうかがえます。これに対し家庭児童相談室やスクールソーシャルワーカー、主任児童委員等の情報交換により、個別に課題のある家庭を把握し支援を行っています。また、子どもの貧困対策に

関する大綱をもとに、国は、今年度中に官公民連携の子供

の未来応援国民運動を立ち上げ、民間資金を活用した基金を新設し、大綱を踏まえた各種支援事業を行うとしています。福岡県では、本年度中に子どもの貧困対策計画を策定するという段階で、市としても、今後の国や県の動向等に注視していきたいと考えています。

待機児童、公立幼稚園の今後の小郡市の対応について



竹腰 昭議員
(共産党)

全国的傾向で、小郡市も保育所は、昨年より待機児童が目立ち逆に、公立幼稚園では児童が半分以上です。幼稚園で延長保育があれば、幼稚園に預けられると言う声を耳にします。地域に密着した幼稚園であるべきで、公立幼稚園も、保育内容を見直し、働く保護者の子育て支援を考慮し、延長保育の取り組みや、3歳児の受け入れも是非ご検討をお願いします。

市長 今年度は小郡幼稚園、

三国幼稚園、両園とも園児数、クラス数ともに減少し、一方、保育所は、昨年度の途中より待機児童が18名となつています。待機児童解消の方策としては、今年度の秋に定員36名の私立保育園が開園予定、また私立保育園2園の増改築で30名の受け入れが可能になる予定です。それにあわせて保育士の確保も図っていきます。公立幼稚園の今後の方針は、幼児施設審議会の中で審議していただき、答申を踏まえて方針を決めていきたいと考えています。

教育長 幼稚園の入園受け入れについては、小郡市の規則で4歳と5歳になっています。今回、審議会の条例を出していますが、その中で公・私立幼稚園、公・私立保育所とも役割を持ちながら、ともに就学前の子供を育てていく視点で広く意見を聞き、方向性を決め取り組んでいきます。

小規模校・大規模校の抱える問題について

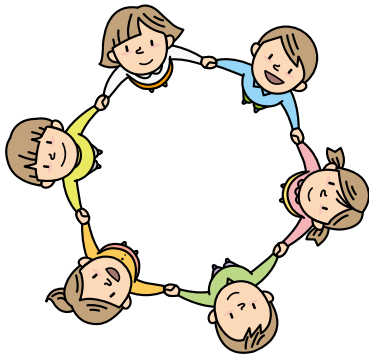


立山 稔議員
(清和会)

市内では、児童・生徒の数によって、クラス替えができない小・中学校と、教室（特別教室や少人数指導教室等を含む）がぎりぎりの状況の小・中学校があり、その差異が大変顕著です。①それぞれにどのような工夫や改善をされていますか。②中学校における通学区の弾力化は、当初期待されていたような成果がありましたか。

これはお願いです。多くの解決すべき問題があるとは思いますが、今後は小学校の通学区の弾力化や小中連携をさらに進めた小中一貫校を作ること等、できるだけ子供達の教育環境がより良くなる方策について、是非とも研究・検討していただきたいと思えます。

教育長―①小規模の小学校では1年生から6年生の縦割り班をつくり、年間を通して集会や遊びの時間の活動を行っ



たり、中学校と一緒にやって行う活動を実施しています。大規模校では異学年での交流の場及び活動の時間を作ったり、教科内容によっては、学年合同の授業を実施し、学年チームで子供を見詰め、指導する取り組みも進めています。②これまでの8年間で67名の生徒が特認校である宝城中、立石中に入学をしており、生徒や保護者からは「新しい友達が多かった」「気分が一新できた」、教職員からは「新しい刺激が入って、よい意味での競争心が持っている」等の報告を受けており、理解・支持をされて、成果を上げていると考えています。

協働における人材育成が大きな課題!!



城山雅朗議員
(清和会)

当市では各校区において「自助・共助・公助」による「市民との協働のまちづくり」が、「健康福祉部会」を含め4つの必置部会と校区独自の部会構成により進められています。3月に小郡市地域福祉計画が策定されましたが、これは「自助・互助・共助・公助」という協働による福祉の推進計画です。今後協働における「共助」の重要性が大きくなっていく上で①地域福祉計画だけでなく健康増進計画や高齢者福祉計画・介護保険事業計画及び障害福祉計画並びに子ども・子育て支援事業計画など、それぞれの計画は今後協働において、どの様に推進されますか。②保健福祉部の各課が共助の中でそれぞれに計画を推進していくと、担当部会の負担は大きくなり、役員や担い手がいなくなるのではないですか。③今後担い手育成が大きな課題になると思われますが、どのようにお

考えかをお尋ねします。

保健福祉部長―①福祉の各個別計画は協働における共助の部会の中で推進していきたいと考えています。

総務部長―②全庁的に担当課が連携を図り、地域にあつた取り組みを行いながら計画を推進していく必要があると考えています。

保健福祉部長―③担当課が市民としっかり関わりながら、ボランティア意識の向上を図ります。

日中の消防活動について



田代和誠議員

就業形態が変化している中で消防団員の確保が困難になってきており、日中の消防活動が厳しくなっていくと予想されます。職員の半数は市外に住まわれています。協働のまちづくりを推進する本市としても機能別分団制度を導入し、市外に住んでいる市役所職員で日中の消防活動を行う分団を作り、日常における

防災力の強化に努め、今以上に地域に密着していく必要があると考えますが、現状を踏まえた今後の日中消防の取り組みについてお尋ねします。

市長―消防団員の高齢化や団員の確保も困難になっている中、小郡市消防団の充実強化については小郡市の地域防災力の強化につながっていくよう機能別分団制度の導入も含め消防団員の確保に向けて消防団と連携をとりながら研究を進めていきたいと考えています。



▲小郡市消防ポンプ操法大会風景

地域での見守り活動



百瀬光子議員
(公明党)

少子高齢化が進み、家族で支え合う機能が弱くなっています。また、地域での人と人とのつながりも希薄になっていく中、高齢者の孤立死や引きこもり、子育て家族の孤立や虐待等様々な課題が生じています。そこで、①地域における見守り活動の現状と課題について、②認知症の人の見守りについて、③福祉委員の制度化についてお尋ねします。

市長 ①市内61区全ての行政区においてふれあいネットワークの体制ができています。しかし、課題として地域での福祉活動の担い手が不足しているという現状がある為、地域での共助の体制づくりが重要であると考えています。②平成26年度末で2628人の認知症サポーターを養成してきました。今後も認知症の人や家族を手助けするサポーターの普及に努めていきます。また、認知症の人が地域や社会とつながる居場所、認知症

カフェ開設の為の支援方法を検討していきます。

③まず、地域の実態を把握することから取り組んでいきたいと考えています。また、今年度には地域福祉活動計画を策定する予定ですので、その中において社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会とも協議を行なっていきたいと考えています。

子育て支援について



後藤理恵議員
(悠成会)

今年4月に子ども・子育て支援新制度が施行されました。この制度は、子育ての分野を社会保障の枠組みの中で考え、社会全体で子どもと子育て家庭を応援するものです。保護者の就労の有無にかかわらず全ての子育て世帯に対して質の高い幼児教育や保育サービスを提供し、待機児童を解消していくことが目指されています。地域における子ども・子育て支援の充実を図るとともに待機児童数が多いとされる0歳児から2歳児、そして3歳児の一部の保育供給に関

する地域型保育事業の強化は実施主体である基礎自治体（各市区町村）に求められています。地域のニーズに切れ目のない教育、保育、子育て支援を保障するために独自性を貫き、各種事業を新制度の中でいかに実現していくかが肝要です。そこで、低年齢児保育のニーズが増大する本市において、今後どのように支援策の充実を図っていくのかお尋ねします。

市長 子育て支援サービスの周知方法について見直しを行い、情報発信をより充実させていくことで、多くの保護者へ必要な情報が届くよう努めます。さらに地域で育児を助け合える体制を整え、「子ども達の明るい声がこだまするまち」を目指してまいります。

スポーツ推進について



廣瀬勝栄議員
(市民クラブ)

小郡市は、国のスポーツ基本法、スポーツ基本計画、福岡県の福岡県スポーツ推進計画に準じながら、今年の3月、小郡市スポーツ推進計画を策定しました。そこで、①小郡ロードレース大会の今後の取り組みと観光協会との連携について、②ジュニア世代スポーツ活動の推進と部活動について、③総合体育館建設の今後の見通しについてお尋ねします。

市長 ①本市の活性化を図るとともに、スポーツを通したまちづくり事業の一環として引き続き担当課と小郡市陸上競技協会と連携を深めながら取り組んでいきます。また、観光協会との連携については、観光協会を初め商工会やJAとも連携し、どのような手法が可能なかを検討していきます。③検討委員会で提言をいただきながら、後期基本計画に織り込んで建設したいと思っています。



▲小郡ロードレース大会風景

教育長 ②ジュニア時代に活動した競技種目が中学校で引き続きできない点については、学校の規模や施設の問題、また指導者等の問題もあり、全中学校が同じ条件で活動できない現状があります。また部活動以外のクラブチームで活動を続けている生徒もいます。